

原井の三則

- ☆場を清める
- ☆時間秩序を正す
- ☆人間関係を高める



第209号 令和5年
7月14日(金)
発行・原井小学校
TEL.22-0863

歴史を未来へ。

六月二十九日から六年生二十九名と一緒に一泊二日の修学旅行に。数年ぶりに広島方面への修学旅行となりましたが二日目に訪れた「大和ミュージアム」で目にしたことばが「歴史を未来へ。」でした。

「歴史を未来へ。」
様々な思いや願いが込められたことばを原井小の六年生はどう受け止めたのでしょうか。

本年度百五十周年を迎える原井小の校長として私がこの修学旅行で心に残った出来事(ことば)でした。みなさんはどう感じられますか。

さて私は学校だより等を通じて原井小の歴史をお伝えしたいと考えていますが今回は「加納辰夫(莞菴かんらい)」さんについてご紹介したいと思います。

みなさんは校長室(片庭校舎時代は講堂)に飾られている「裏富士」という絵をご存じでしょうか。



今から九十年前附属小学校時代に本校に勤務されていた加納辰夫さんが描かれた絵です。

この絵は火災により全焼した校舎を立て替えた際新校舎(片庭校舎)のシンボルとしてまた「学校は焼けても私たちの心は焼けない」を合言葉に勉強に励んだ児童のために描かれた。昭和八年のことです。

加納さんは戦後妻と愛児三人を日本軍に殺害されたフィリピンの大統領に書簡を送り続ける等の活動を通して日本人戦犯の釈放に尽力。

その遺志を受け継がれた娘である加納佳世子さんは今安来市にある加納美術館の館長として父辰夫が希求した平和思想平和活動の実践・深化に努められています。

なお加納美術館にはコロナ禍の二年間修学旅行の見学先として訪問。加納(佳世子)さんから直接平和についてお話を伺っていました。

原井小の子どもたちにはこの絵の由来や本校の先生でもあった加納さんの思いや願いを伝えたり「平和とは「自分はどう生きるべきか」について考えたりすることができる機会を設定したいと思っています。

「戦争反対!」と思うだけ唱えるだけでは対応できないという時代であると思っています。

とはいえ朝からカラオケで盛り上がる宮島で笑顔で買い物をするそして小雨の中遊園地で仲間と一緒にうれしそうに走り回る六年生を見てみるとこの子たちはきっと大丈夫。平和な世界をつくり出していくことができる子どもたちだ。



そんな可能性を感じることができました。六年生と一緒に修学旅行に行くことができ幸せでした。

三月十五日(金)の卒業式に向け今後の活躍も楽しみでなりません。

来年度も広島方面に出かける予定です。これからも重要な学校行事として大切にしていきたいと思っています。